

問い合わせ先

第八管区海上保安本部 海洋情報部

海洋調査課主任海洋調査官 江上^{えがみ} 亮^{まこと}

TEL 0773-76-4100(内線 2531)

0773-75-7373(直通、八管海の相談室)

平成18年8月29日
第八管区海上保安本部

= 由良川河口付近の海況速報！ =

第八管区海上保安本部では、本年6月26日から8月3日までの間、海浜事故防止等に資するため、同付近の流況及び地形調査を行いましたので、調査結果の概要を速報します。

1 由良川河口域の流況（別紙図1, 2）

- ・河口最狭部（幅約160m）では秒速60cm、河口沖の栗田湾でも秒速10～30cmのいずれも沖に向かう流れを観測した（別紙図1）。
- ・由良川河口から観測ブイを放流した結果、栗田湾を抜けると更に強い流れが観測され、同ブイは約24時間で約19km、舞鶴市の野原港沖まで流された（別紙図2）。
- ・河口沖約2kmに設置したADCP(*1)による観測の結果、東向きに秒速約1.2mの強い最大流を観測した。
- ・STD(*2)観測の結果、由良川河口からの河川水は海面下2～3mまでの表層を流れ、沖合約5kmまで拡散していた。

2 由良川河口付近の海岸線の変化（別紙図3）

7月7日に行った調査では、平成16年に比べて河口幅が約50mと狭くなっていた（図中青線）。7月25日の再調査では、神崎側の海岸線が削られ約170mに広がっていた（図中赤線）。これは、7月20日の大雨の影響によるものと思われる。

3 その他

- (1) 由良川河口付近海域は、降雨後は増水により更に強い流れが、また、波浪等により離岸流が発生することがあります。また、海岸線や水深は、台風等による波浪や大雨による陸地・海底の浸食、砂泥等の堆積により変化します。由良川河口近でのマリンレジャーや小型船舶の航行には十分注意して下さい。
- (2) 今回の調査は、第八管区海上保安本部と京都大学舞鶴水産実験所が共同で、由良川河口域流況調査の一環として実施したものです。詳細については、資料整理等が終了次第公表することとしています。

(*1) : ADCP : 超音波流向流速計(Acoustic Doppler Current Profiler)

(*2) : STD : 塩分(Salinity)、水温(Temperature)、水深(Depth)の値を連続的に測定する機器

由良川河口付近の流れと地形

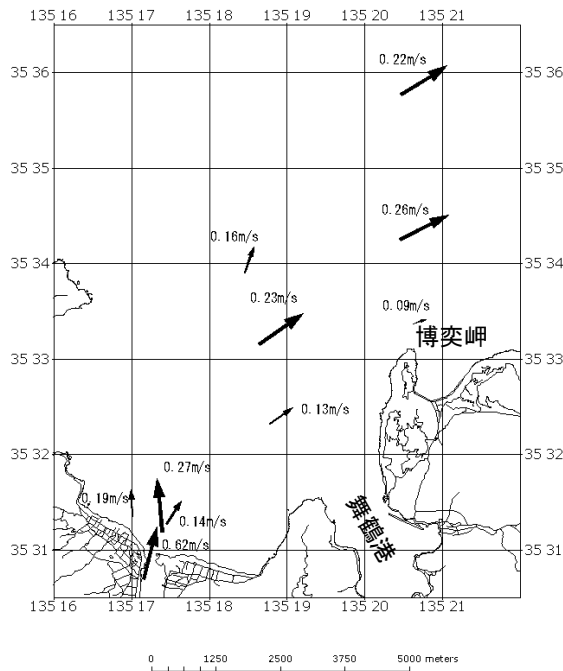


図1 流れの状況

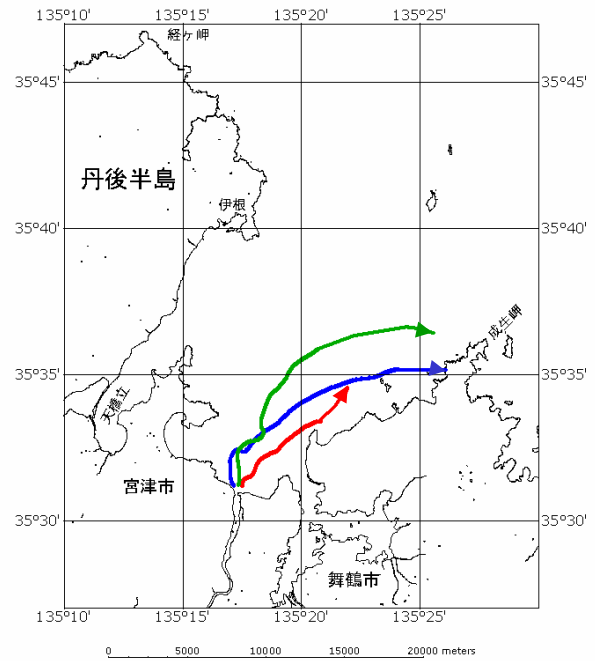


図2 漂流ブイの軌跡
(7月25日～26日約24時間)



図3 海岸線の変化